

釘等の金物を使わずに従来型の約2倍の剛性・耐力を実現します。

お客様のメリット

- 社寺等の伝統的木造建築に「金物を使いたくない」という要望にお応えします。
- 外観は従来の板壁と何ら変わりはありません。
- 伝統構法で現行の建築基準をクリアします。

技術の特徴

「T-WOOD 組み板壁」は、板を柱に嵌め込むための溝に、更に一段深い溝を刻みます。この深い溝を、重ねていく板一枚一枚交互に左右の柱に設け、板を溝に組み込み栓を挿して隙間を無くし、壁全体の剛性を向上させます。

従来工法との比較

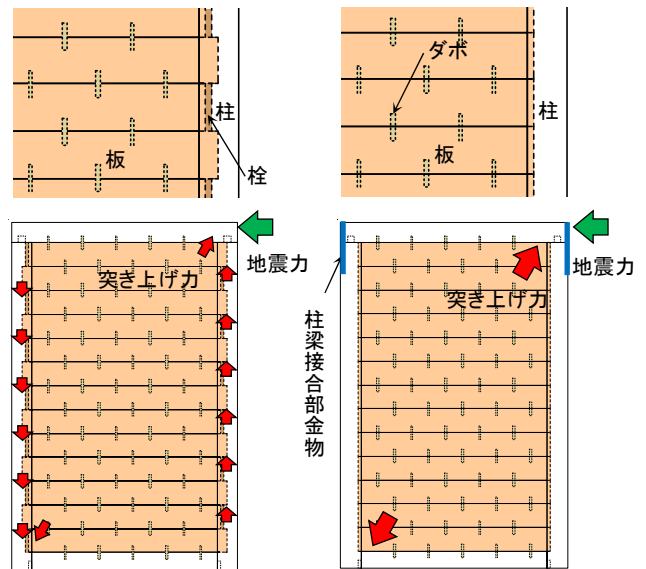
「T-WOOD 組み板壁」は、耐力壁の構造性能である剛性・耐力が、従来工法による耐力壁に比べて約2倍であることを、実験により確認しました。

接合金物不要

従来工法は、柱と板の接合が弱いことで、壁を囲む柱と梁の接合部に壁からの突き上げ力が集中するため、柱梁接合部の金物が必要でしたが、「T-WOOD 組み板壁」は、柱一枚の接合から力を分散して伝えることでこの金物が不要となり、「金物を使わない」という要望に応えることができます。



T-WOOD 組み板壁



従来工法

実績・事例

九品仏浄眞寺閻魔堂の改築工事

世田谷区の閑静な住宅地にある、「お面かぶり」で有名な九品仏の閻魔堂にこの技術を適用しました。閻魔堂は境内の小さなお堂で、「昔ながらの伝統的な工法」で建て替えられました。

